

# 玉藻

第32号

## 玉藻 第三十二号 目次

### 関 晃先生追悼

関 晃先生追悼	三田村 雅子	1
略 年 譜		3

『春色梅児誉美』における「ちと」「ちつと」「ちよつと」ノート

石塚 和世

『山路の露』第一類本・第二類本 対校略本(稿)

中西 美 希・山本 博子

大物主論

萩原 千恵里

源氏物語における夢の役割

西嶋 幸代

『鉢かつき』論

木藤 由美

安部公房「砂の女」論

高木 利枝

〈鏡〉をめぐる一試論

大江健三郎研究

『万延元年のフットボール』を中心に

大野 登子

森茉莉のロマネスク小説に関する一考察

菅田 あい

中国における盆栽

盆栽(盆景)にみる中国人の仙郷観をめぐって

フェリス女学院大学文学部日本文学科(旧 国文学科) 歴代専任教員録

一九九五年度修士論文・卒業論文題目

会則

〈研究ノート〉

鹿兒島方言における姓と名のアクセント

八代集における形容詞逆引き語彙表

〈平安文学における形容詞 資料Ⅶ〉

○国文学会総会・新入生歓迎講演会

一九九六年度国文学会総会・新入生歓迎講演会が、七月五日（金）に、行われた。

総会では九五年度事業・決算報告及び九六年度予算・事業計画、国文学会委員の選出などがなされた。

総会終了後、引き続き新入生歓迎講演会が行われた。講師に、早稲田大学前教授で、『音』短歌会主宰、歌人の武川忠一先生をお迎えし、「短歌の楽しみ」と題して講演して頂いた。含蓄ある軽妙な語り口に、聴衆一同聞き入った。短歌が身近なものに感じられたのは、講師の分かりやすく、簡潔な語りの中に短歌の深みが開示されたからであろう。

編集後記

日本文学科・国文学会は、昨年一九九五年（平成七）年、三〇周年を迎えた。『玉藻』三十一号は特集号となった。六月には、記念事業として数年がかりで取り組んだ『国文学論叢』が刊行された。内容の力作ぞろいで、好評をいただいた。まだ残部もありますので、研究室までお問い合わせください。

い。

(M)

玉 藻 第三十二号

一九九六（平成）年二月一日 印刷  
一九九六（平成）年一月一日 発行

編集兼 フェリス女学院大学国文学会  
発行人 代表者 三田村 雅子

印刷所 ワセダ・ユー・ピー  
〒169 東京都新宿区西早稲田1-1-7  
電話 (03) 33103133 33103108

発行所 フェリス女学院大学国文学会  
〒231 横浜市中区山手町三七